神戸ＦＣレディース　２度目の優勝

── 59年度関西女子１部リーグ ──

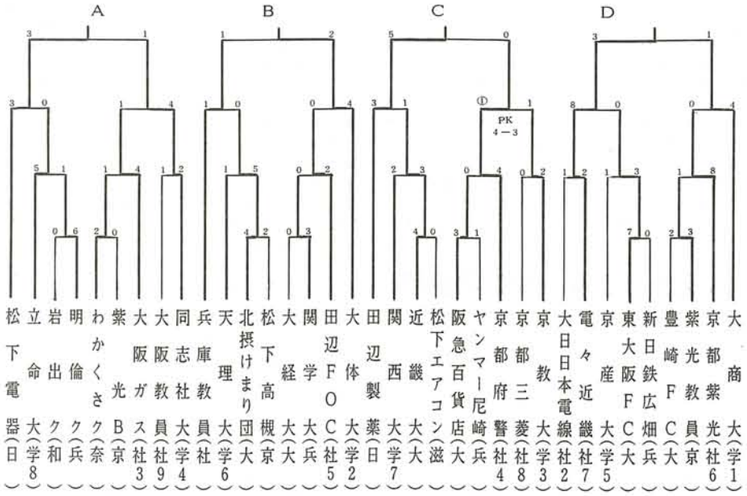
59年度関西女子リーグは、６月２日に開幕した。今年度からホーム・アンド・アウェー方式が採用され、１部、２部に分かれて京都から社町（兵庫）までの広範囲で熱戦が展開されたが、12月９日、１部は前、後期全日程を終了し、神戸ＦＣレディースが、前期首位の常勝、西山高校クラブを後期で逆転し、勝点の１差をつけて優勝した。神戸ＦＣレディースの優勝は、53年度に続き２度目、11人制になってからは初めてである。

なお、２部は現在も熱戦を展開している。

59年度関西女子リーグ１部結果

順位	チーム名	神戸ＦＣレディース	西山高校クラブ	高槻女子ＦＣ	高倉中学校	兵庫教育大学	勝	分	敗	点	得	失
1	神戸ＦＣレディース		●１－２ △０－０	○１－０ △０－０	○１－０ ○３－０	○４－１ ○６－０	5	2	1	12	16	3
2	西山高校クラブ	○２－１ △０－０		○４－３ △０－０	●１－３ ○２－１	○５－０ △０－０	4	3	1	11	14	8
3	高槻女子ＦＣ	●０－１ △０－０	●３－４ △０－０		△２－０ ○３－０	○３－０ ○６－０	3	3	2	9	17	5
4	高倉中学校	●０－１ ●０－３	○３－１ ●１－２	△２－２ ●０－３		○５－０ ○４－０	3	1	4	7	15	12
5	兵庫教育大学	●１－４ ●０－６	●０－５ △０－０	●０－３ ●０－６	●０－５ ●０－４		0	1	7	1	1	27

第64回天皇杯全日本選手権関西大会結果



この結果、第64回天皇杯全国選手権中央大会へは、松下電器、大阪体育大学、田辺製薬、電々近畿の４チームが出場することになった。

本紙は右記の店にもあります

有宏スポーツ
東灘区御影本町4丁目11-9　☎078(412)2601
阪神御影駅南側西へ30m

塩谷スポーツ
兵庫区大開通７丁目５　☎078(576)0870
バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC
三宮センター街店　☎078(391)0895
プレザーショップ、トーアロード店　☎078(391)0896
ドルチェ・マック、センター街店　☎078(332)0141

ヤノ運動用品
本店　中央区三宮町3-8-1　☎078(391)1121
ファイブ店　中央区三宮町2-7-8　☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

スメラ
湊川店　湊川プラザ２階　☎078(511)2234
鈴蘭台店　ダイエー西側　☎078(592)0470

加茂トアロード店
中央区三宮町３－８－８　☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100m

マヤスポーツハウス
灘区赤坂通７丁目５－14　☎078(861)8143　(861)4146

ワールドスポーツ
東灘区深江北町４丁目７－３　☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

第６回全日本女子選手権大会
関西地区予選結果

全国大会へ
高槻女子ＦＣ
西山高校クラブ
神戸ＦＣレディース
が出場

第６回全日本女子選手権大会の関西代表を決める予選大会は、１月６日と13日の両日、高槻北大冠小学校と西山高校で行われ、昨年と同様、高槻女子ＦＣ、西山高校、神戸ＦＣレディーズが全国大会出場を決めた。予選には関西から７チームが出場したが、代表３チームの力は頭抜けており、予想通りの結果であった。全国大会は、３月28日から31日まで東京国立競技場、西が丘サッカー場で行われる。

１次戦（１月６日）

〔Ａ組〕

（１回戦）
高槻女子ＦＣ　3（2－0、1－0）0　兵庫教育大学
神戸ＦＣレディース　5（3－0、2－0）0　塩原女子高校

（１位決定戦）
高槻女子ＦＣ　3（1－1、2－0）1　神戸ＦＣレディース

（敗者復活戦）
兵庫教育大学　2（1－0、1－0）0　塩原女子高校

（２位決定戦）
神戸ＦＣレディース　6（2－0、4－1）1　兵庫教育大学

①高槻女子ＦＣ　②神戸ＦＣレディース
③兵庫教育大学　④塩原女子高校

〔Ｂ組〕
西山高校クラブ　9（4－0、5－0）0　神戸女学院中等部
高倉中学校　3（1－0、2－0）0　神戸女学院中等部
西山高校クラブ　0（0－0、0－0）0　高倉台中学

①西山高校クラブ　②高倉中学校
③神戸女学院中等部

決勝トーナメント（１月13日）

（準決勝）
高槻女子ＦＣ　2（1－0、1－0）0　高倉中学校
西山高校クラブ　2（0－0、2－0）0　神戸ＦＣレディース

（決勝）
高槻女子ＦＣ　4（1－0、3－0）0　西山高校クラブ

（３位決定戦）
神戸ＦＣレディース　2（0－0、2－0）0　高倉中学校

※　競技時間は30分ハーフの60分

神戸市社会人運営会議予定
次回　３月14日(木)

３月22日、いずれも18時30分から王子登山研究所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、１年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒650　神戸市中央区八幡通２－１－10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会　☎078-232-0753
なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

Juchheim's
Tur große und kleine Feinschmecker
Köln-Frankfurt am Main
Seit 1892
ユーハイム

月刊
神戸のサッカー
1984　**11月号**

発行所　神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651　☎(078)232-0753
発行人および編集人　一北　四郎
神戸市灘区上野通６丁目３－１２
〒657　☎(078)861-3100

毎月1回10日発行　購読料１部50円

59年度兵庫県高等学校選手権大会兼全国大会県予戦

伊丹西、御影を下し初優勝

スリーキックからの得点を守り抜く

昭和59年度兵庫県高等学校選手権大会兼第63回全国高等学校選手権大会予選は、夏休みから熱戦を展開し11月11日、神戸市中央球技場に於いて決勝戦が行われた。決勝は一戦ごとに力をつけてきた伊丹西、前評判の高かった御影との初顔合わせとなったが、伊丹西が前半立ち上がりのＦＫからの得点を守り抜き、見事初優勝を飾った。

決勝（11月11日、神戸市中央球技場）
伊丹西　1（1－0、0－0）0　御影

◀初優勝を飾り全国大会出場を決めた伊丹西高イレブンたち、一試合ごとに力をつけ、決勝戦では見事なプレーを見せた。（11月11日、神戸市中央球技場）

兵庫県選手権大会を顧みて

高校委員長　佃　幹夫

今回中央大会に進出を果した８チームは、いずれも県の高校を代表する好チームであった。

各チームともすばらしい選手がおり、そして、彼らによってチームが特色づけられていたように思います。伊丹西は伊丹西なりに又、御影は御影なりに技術的にもスピードの点でもすばらしいチームに育てられていました。このたびはリーグ戦の各試合が迫仲しており、一戦一戦大変な努力で戦っていたように思います。

ところで、このような接戦の中では技術や体力はいうに及ばず、選手が緊張状態をいかにコントロールして試合に臨むか、いわゆるセルフコントロールが大きな問題であると感じました。ロス・オリンピックで日本代表選手の多くが金メダルへの期待が大きすぎて、かえって満足な力を発揮出来ぬまま敗れてしまったといわれます。高校生諸君にとって「勝ちたい、勝たねばならぬ」という気持が大きなプレッシャーになりますと、これが一方ではチーム力を支えるよい結果をもたらしますが、他方、力みすぎて思いもよらぬ結果を招くことにもなりかねません。今回優勝候補の筆頭と期待されていた伊丹北高は気負いすぎの感じがしたのですが、結果的には決勝トーナメントにも進出できず、惜しまれつつ姿を消してしまいました。

技術的には完成に近く、あと一歩の前進を目差す多くのチームにとって、けがをした選手や病気をした選手へのコンディショニングは勿論、選手個人やチームの状態が最高点になる時期をどこに持っていくかの問題やセルフコントロールのあり方が今後大きな研究課題であろうと思います。特に柱になる選手や未経験な一年生選手に対する配慮を充分に考考える必要があると考えます。ゲーム中でのトラブルや、ややもすると過緊張になりがちな選手に対する監督の対処にも研究の余地があるのではないでしょうか。その点、平素の練習試合においても、ただ何となく過ごすのではなく、あと一歩前進のための研究課題を設けて臨むべきではないかと思います。兵庫代表が全国大会において好成績を挙げるためにも大切な問題だと思いますのでぜひ技術、体力、戦術面と共に、このような事に対する訓練、トレーニングにも心を配り一層強いチーム作りを目差したいと思います。

今回優勝の伊丹西は各ゲームに実力を発揮し、優勝戦では御影高を接戦の末破って全国大会出場を果しました。決勝での全選手の働きはすばらしく、正月の全国選手権大会の活躍が期待されますが、兵庫県大会での教訓を生かし、大いに頑張って下さることを心から祈ります。

チーム全員の粘りと頑張りに感謝

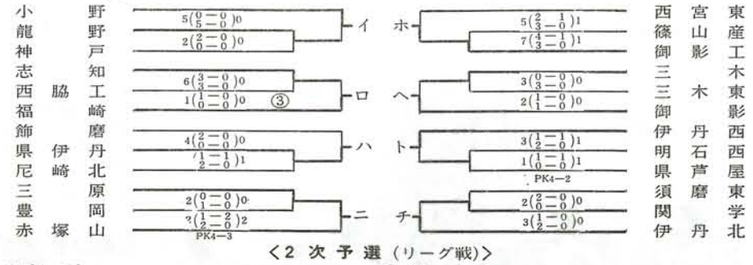
県立伊丹西高等学校　山田　仁彦

振り返ってみると、インター杯予選で、伊丹北高に延長戦で惜敗した。部員達も選手権では、上位を狙えると思い選手権大会に向けて練習に励んだ。今大会では２次リーグでは実力伯仲のチームばかりであり、色々な試合展開を学んだ。御影工戦では２点リードから残り５分間で同点になり、御影戦では残り３分に同点においつく粘りを見せた。決勝トーナメントでは、とにかく西高のサッカーをしようと臨んだ。

決勝戦では、立ち上がりから中盤の菰口、山田の頑張りで西高のペースとなり、ＦＫから１点を上げることができ、御影の攻撃をよく防ぎ、なんとか切りぬけた。優勝できたのも三年生を中心にチーム全体の粘りと頑張りのおかげで、彼らに感謝したい。

昭和59年度兵庫県高等学校選手権大会
兼第63回全国高等学校選手権大会予選　中央大会結果

〈１次予選〉



〈２次予選（リーグ戦）〉

Ａグループ

チーム名	小野	福崎	県伊丹	三原	勝点	勝	分	負	差	順位
小野		1(1－0、0－1)1	3(2－0、1－0)0	2(1－1、1－0)1	5	2	1	0	+4	2
福崎	1(0－1、1－0)1		7(5－0、2－1)1	1(1－0、0－0)0	5	2	1	0	+7	1
県伊丹	0(0－2、0－1)3	1(0－5、1－2)7		0(0－2、0－1)3	0	0	0	3		4
三原	1(1－1、0－1)2	0(0－1、0－0)1	3(2－0、1－0)0		2	1	0	2		3

Ｂグループ

チーム名	御影工	御影	伊丹西	伊丹北	勝点	勝	分	負	差	順位
御影工		1(1－0、0－1)1	2(0－2、2－0)2	0(0－1、2－3)4	2	0	2	1	－3	4
御影	1(0－1、1－0)1		2(1－1、1－1)2	3(2－1、1－0)1	4	1	2	0	+2	1
伊丹西	2(2－0、0－2)2	2(1－1、1－1)2		2(1－1、0－0)1	4	1	2	0	+1	2
伊丹北	4(1－0、3－0)0	1(1－2、0－1)3	1(1－1、0－1)2		2	1	0	2	+1	3

決勝トーナメント

伊丹西 1（1－0、0－0）0 御影

福崎 ─ 1/2 ─ 伊丹西
0/2 ─ 小野
御影

第18回県中学生選手権大会　神戸ＦＣ 2年連続3度目の優勝

59年度第18回兵庫県中学生サッカー選手権大会は11月11日神戸中央球技場において、決勝、神戸ＦＣ（神戸）対笹原中（伊丹）の試合が行われた。
試合は１点を争う好ゲームとなったが終始押し気味に試合を進めた神戸ＦＣが見事後半、決勝点をあげ優勝した。

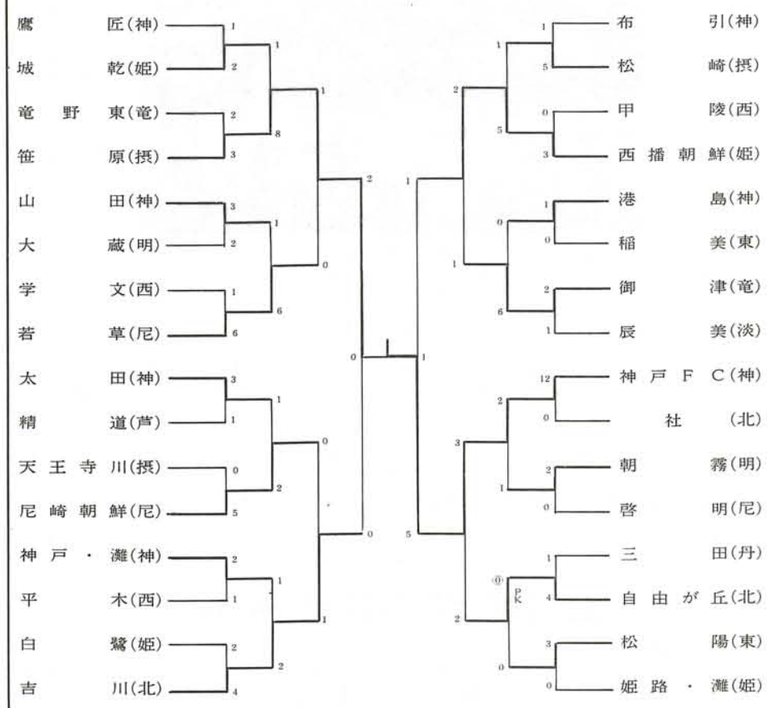
▷決　勝（11月11日、神戸中央球技場）

神戸ＦＣ　1 { 0—0 / 1—0 } 0　笹原中

〔評〕
開始早々から神戸ＦＣが押し気味にゲーム進めたが笹原中の身体を張った守りで決定的なチャンスをつくれなかった。
後半16分、中盤から神戸ＦＣ藤田が独走、シュートし、ポストに当たってはねかえった。そこへ走り込んで来た板垣がシュートして、見事に決めた。結局これが決勝点となった。
神戸ＦＣは決勝戦までは危げなく勝ち進んできたが、この試合に限り、いつものように攻め込んだ割りに得点できなかった。それは、笹原中イレブンの捨て身のスライディング等、執拗な守りのせいであった。笹原中はエースストライカーの樋口にも守りを徹底させていたし、スイーパー北田の読みと気迫もすばらしいものだった。

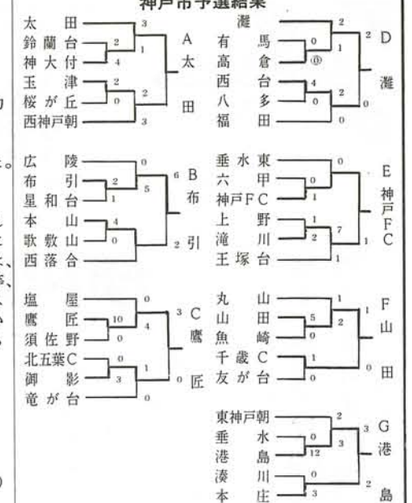
（市川雄一）

第18回兵庫県中学生選手権大会結果



◀決勝
神戸ＦＣ対笹原中
前半神戸ＦＣの山崎がシュートするもゴールならず。

第15回　県中学生選手権大会　神戸市予選結果



これは、日本サッカー界の憲法です。何かと参考にして、協会運営がスムースに行われますようご協力下さい。

財産法人　日本サッカー協会寄付行為　⑦

第４章　役員及び評議員

第23条　評議員は、評議会を組織して、この寄附行為に定める事項を行うほか理事会の諮問に応じ、会長に対し必要と認める事項について助言する。

第５章　名誉会長、顧問及び参与

第24条　この法人に名誉会長を置くことができる。
２．この法人に顧問及び参与若干名を置くことができる。
３．名誉会長、顧問及び参与は理事会の推薦に基づき、評議員会の議を経て会長が委嘱する。
４．名誉会長及び顧問は会長及び理事会の諮問に応じ、参与は理事会の諮問に応ずる。

第６章　事務局

第25条　この法人の事務を処理するため事務局を置く。
２．事務局に職員を置き会長が任免する。
３．職員は有給とする。
４．事務局に関する規定は、別に定める。

第７章　会議

（理事会の招集等）
第26条　理事会は、年２回以上会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合又は、理事現在数の３分の１以上から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求されたときは、その請求があった日から15日以内に臨時理事会を開催しなければならない。
２．理事会に付議する事項は、あらかじめ各理事に通知しなければならない。
３．理事会の議長は、会長とする。

充実のモルテンTango
サッカー界の新しい[illegible]パワー[illegible]タンゴ

株式会社 モルテン
広島／東京／大阪／名古屋／福岡／札幌

日本サッカーに ルネサンスは起こるか？（17）

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方ＦＣの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。
「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。

枚方ＦＣ　近江　達

4-3-3はセンスがないと……

そこで、指導者はどうやってそれを選手たちにやらせるのか？
打ち合わせや教えこみと練習によって、ある程度は可能である。だが、すべてをそうすることは無理である。結局、あとは選手一人ひとりの頭脳の働きに任せる以外に方法がない。
４—３—３の第二の特色は、選手に能力さえあればいかなるシステムにでも容易に移り得ることである。試合中起り得るあらゆる種類の応用問題的状況変化に対応できる融通自在な流動的システムである。
それだけに、選手たちの意欲と才能、とくに、センス、判断力、イマジネーション、創造性などが大きくものを言うので、その差によって試合内容にかなりの違いが生れる。
その点、わが国では、サッカー観が欧米と異り、「サッカーは選手が智恵を働かせて、自分たちでゲームを作り出していくものだ」という考え方がほとんどなく、決められた流れ作業をソツなくこなせる、あるいは指令待ち型の均一的な素直な戦士に仕込む教育が、小学校から大人になるまで続くために、選手に積極性、創造性が乏しい。
そのため、同じ４—３—３でも、欧米チームのように臨機応変、自由奔放に、大胆に、あるいは、キメこまかく、大小さまざまな変化を作り出すことは、トップクラスのチームでさえほとんどできず、おおむね大味で整然たる陣型のままフィールドを前後して攻守を行うにとどまる。
考えてみれば、４—３—３は、欧米が百年かかってやっと編み出したシステムなのである。それも、日本と違って、選手の自由度の高いサッカーだから、選手の能力、とくに戦術的センスや創造性などがそこまで進歩向上した結果、生れるべくして生れたわけである。
そこへ行くと、こちらは、４—３—３が欧米の最新型システムだ、ということだけで輸入して学習しているにすぎない。
「システムは選手の個性や能力に合うものを選べ」と言われているが、何も選手が４—３—３にふさわしいレベルに達したから採用したのではない。だから、本場の連中の自由で創造的な４—３—３のようにいかないのは無理もないことかも知れない。
大多数の選手のセンスや能力はまだ４—３—３の手前のようで、試合を見ていると、「特別に１チームの人数を12人にしてもらって、４—４—３でやるのがいいところではないかな」という気がすることさえある。
それにしても、４—３—３を使いこなせないということは、とりもなおさず流動的な変化に富む現代サッカーについて行きかねている、ということであろう。

△流動的な創造性に富む現代サッカーに日本のサッカーはまだ達していない。（第64回天皇杯準決勝、読売クラブ対フジタより）

任されると困る選手たち

近頃は企業のあり方の見直しがさかんだが、企業や役所で部下を使う場合、第一線で働くものにあまり権限を与えないでおきながら、「働け働け」と尻をたたいて、たえずガミガミ文句ばかり言ったのでは、短期間なら成績はあるかもしれないけれど、長続きはしない。それどころか、そのうちに、かってのスパルタの如く、有能なものは去り、上役の顔色ばかり窺う要領屋とか、無能なイエスマンしか残らないということになりかねない。
そこを工夫改良して、現場で働くものがそれぞれ能力や特色を十分発揮できるように適材適所に配置して、自由裁量できる枠を広げ権限を大きくして、信頼して任せてやれば、仕事が面白くなり能率が上るから、組織全体の業績は必ず伸びるし、本人も力がつく。
サッカーも理屈はそれと同じだろうと思うのである。

ふえたサラリーマン的選手

もっとも、日本サッカーも以前に比べると少しずつ変ってきている。
昔の試合など、指導者が気に入らないところがあると、口やかましく直して、無理矢理自分のイメージに近づけ、選手が言うとおりにしないと承知しなかったのだが、最近は、本筋は相変らずの管理サッカーであるものの、さすがに昔ほどひどくはない。かなり選手に任せる指導者も出てきた。いいことである。ところが、物事はなかなかうまくいかぬもので、今後はサラリーマン的選手——むろん、悪い意味である——がふえてきたという。
担当や命じられた仕事はするが、指令されないことはしない。任されると、「しめた、思いきりやれるぞ！」と張り切るのではなくて、かえって重荷に感じたり、「教えもしないでできるはずないじゃないか」などとぼやくタイプである。

▲創造性・自立性に富んだ選手が、今後育つことを期待したい。（第12回神戸ウインター・フェスティバルより）

これは何もサッカー選手だけでなく、最近の若者全体にみられる共通点なのだが、試合はそうした一見巧そうでスマートなチャッカリ屋の選手たちの、いわば会社型のチームよりも、きびしいワンマン指導者が陣頭指導をとり、忠義一途の選手たちが一致団結して戦う古い個人商店のようなチームとか、技術は下手でもラフプレーと勢いでぶち当る荒々しいチームの方が強いことが多いので、余計非難が集中する。
選手に任せること自体は、本来サッカーとはそうあるべきだから、全く正しい。正直言って遅すぎるけれども、やっとここまで漕ぎつけた。ところが、せっかく指導者がそこまで変ってきたのに、肝心の選手の方が期待にこたえられない。残念なことである。
でも、それはしごく当然なのである。というのは、学校では○×だし、サッカーでもずっと詰めこみやら命令でやってきたものだから、創造性も自立心も積極性も足りない。そのために、大人になってから任されても、めいめいの判断やアイディアだけでは、充分対応処理しきるところまでいけない。上から厳しく言われなくと、やる気が起らず気合が入らない選手さえいる。
結局、指導者がただやかましく言うことを差し控えるだけでは、従来と比べて僅かな管理度の減少と選手の自由度の増加をもたらすに過ぎず、下手すると、はなはだしまらなくなってしまう。
それだけでは、サッカー内容の進歩向上にまではつながらないのである。

明日の栄光を勝ちとれ！

マーカム33
標準小売価格　¥8,000
markam®
サッカーの基本プレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えたサッカーシューズ"マーカムシリーズ"
80年代をリードするサッカーウェアー
younger®
MONTBLANC.
リアル・スポーツの追求
モンブラン株式会社
神戸・東京・福岡